

試験研究成果普及情報

部門	病 害 虫	対象	普 及
<p>課題名：北海道の輪換畑を利用したイチゴリレー苗の生産技術 6．イチゴ炭疽病及び萎凋病の防除</p>			
<p>[要約] 北海道の輪換畑(初年目)を利用してイチゴの育苗を行うと、炭疽病及び萎凋病を回避することができる。</p>			
<p>キーワード (専門区分) 作物病害 (研究対象) 野菜類 - イチゴ (フリーキーワード) イチゴ、リレー苗、輪換畑、炭疽病、萎凋病</p>			
<p>実施機関名 (主査) 農業総合研究センター 暖地園芸研究所 環境研究室 (協力機関) リレー苗プロジェクトチーム、安房農業改良普及センター、北海道空知南東部地区農業改良普及センター、安房いちご苗委託組合 (実施期間) 2001～2003年度</p>			

[目的及び背景]

安房地域のイチゴ栽培では、夏季の育苗期間中に高温多湿となるため、*Colletotrichum gloeosporioides*による炭疽病が多発し、毎年苗不足の状態が続いている。そこで、夏季冷涼で炭疽病の発生が認められていない北海道に苗の増殖を委託するリレー苗生産が、1990年代後半から試みられてきた。ところが、委託先の北海道の露地永年畑は、高冷地で発生の多い*Verticillium dahliae*の汚染地帯であったため、1999年に萎凋病が多発して問題となり、リレー苗生産は断念された。しかし、低価格かつ無病である苗の安定供給システムの確立は強く要望されている。そこで、炭疽病及び萎凋病に無病なイチゴリレー苗の生産技術を確立するため、北海道の輪換畑を利用した場合の炭疽病・萎凋病の防除効果について実証する。

[成果内容]

- 1 北海道の輪換畑を利用してイチゴのリレー苗生産を行うことによって、千葉県で問題となる炭疽病及び北海道で問題となる萎凋病の両病害を回避することができる(表1)。
- 2 北海道での育苗中及び千葉県での本圃定植後のいずれにおいても、リレー苗には炭疽病及び萎凋病の発生は認められない(表1)。

[留意事項]

- 1 畑転換して長期間経過した圃場では、萎凋病菌に再汚染されている可能性があるため、初年目の輪換畑で育苗し、栽培終了後は、再び水田に戻す。
- 2 リレー苗は炭疽病及び萎凋病に無病であるが、リレー苗を定植した本圃が汚染されていた場合は発病することが考えられるので、注意する。

3. 炭疽病潜在感染の検定を行っていない苗を北海道へ持ち込まない。

[普及対象地域] 県下全域、全国

[行政上の措置] なし

[普及状況]

[成果の概要]

表1 北海道の輪換畑を利用した場合の炭疽病及び萎凋病の防除効果

育苗場所	調査株数		炭疽病発病株率(%)		萎凋病発病株率(%)	
	親株 ¹⁾	苗 ²⁾	親株	苗	親株	苗
北海道輪換畑						
H12 栗山町	820	47,200	0.0	0.0	0.0	0.0
H13 栗山町	2,200 ³⁾	113,515	0.0	0.0	0.0	0.0
H14 栗山町	4,205 ⁴⁾	258,260	0.0	0.0	0.0	0.0
北海道永年畑						
H11 女満別町		5,129		0.0		39.3
H12 栗山町	500	196	0.0	0.0	25.0	17.3
H13 栗山町	67	92	0.0	0.0	82.1	57.6
H14 栗山町	16	92	0.0	0.0	68.8	73.9
千葉県永年畑						
H12 館山市		18,246		5.4		0.0
H13 館山市		188,000		6.5		0.0
H14 館山市	209	66	39.2	36.4	0.0	0.0

1) 親株の発病調査は、北海道での育苗中に行った。

2) 苗の調査は、北海道での育苗中及び千葉県での本圃定植後に行った。

3) 定植時期別の親株の内訳;春植え:2,100株、秋植え:100株

4) 定植時期別の親株の内訳;春植え:782株、秋植え:3,423株

[発表及び関連文献]

平成13年度日本植物病理学会大会